

平成27年度第3回相馬市総合教育会議議事録

1 開催日時

平成28年2月15日(月)

開会 午後3時10分 閉会 午後3時51分

2 開催場所

相馬市役所 3階 庁議室

3 出席した構成員

相馬市長	立谷秀清
教育委員	森陽子
教育委員	菅野明彦
教育長	堀川利夫

4 欠席した構成員

教育委員長	宗形明子
職務代理者	小畑強子
教育委員	関根進

5 事務局関係

(相馬市)

企画政策部長	橘川茂男
企画政策課長	横山哲也
企画政策課長補佐	荒川誠

(相馬市教育委員会)

教育部長	臺内吉重
生涯学習部長	渡部卓
総務課長	神戸伸一
学校教育課主幹	渡邊義人
総務課庶務係長	小関善之

6 傍聴人

なし

7 協議事項

1 重点的に講ずべき施策について

- ① 「市立学校規模のあり方」提言について
- ② 相馬市地域見守り協議会の設立について

2 その他

- ① 中村第一中学校屋内運動場の改修事業概要について

8 議事の経過

1 開 会

2 市長あいさつ

3 協議

1 重点的に講ずべき施策について

①「市立学校規模のあり方」提言について

○ 協議結果

3月定例会市議会に提案する条例の改正案は、6月まで待つことにする。

結論を廃校とする事は時期尚早。休校とした場合の意見についても、住民や市連Pの意見も踏まえて判断する必要がある。

慎重な合意形成を教育委員会に願います。

○ 協議内容

<立谷市長>

玉野地区は、原発の高線量地域なので、今後とも地域としては、困難とまでは言わなくとも、配慮しなければならない地域と思っているので、廃校にすることは、果たして適切なのかと思う。

私は、休校という措置をとって、休校を何年か続けたうえで廃校ということの方が良いと思う。

教育長はどう思いますか。

<教育長>

2・3年様子を見るということ、当初考えていた。

現時点で、就学前の子どもたちは二人しかいない。

この児童が入学しても、学校としては成り立たないことが実態である。

幼稚園では、親の勤めの関係もあり、保原に入園させるということも、前々から聞いていたので、ゼロになる事は間違いない。

<立谷市長>

玉野地区の可能性を、これだけの期間のこれだけの議論で、閉ざしてしまって良いのだろうか。

玉野地区の人口も減少し、子どもがいないことも重々分かる。

しかし、学校があることは、そこの体育館を使ったり、地域のコミュニティの拠点になったり、単に子どもの教育だけ

ではなくて、地域に与える影響も沢山あると思う。

これまでも、線量が高いと言う事で、私も米を支給したり、色々と苦勞してきたが、そこで地域の可能性を閉ざすという判断をすることが、果たして適切か、私は考えていなかった。

だから、休校として様子を見る中で、ある程度の猶予期間を持って、廃校という決断で良いのではないかと私は思う。

放射能に関しては大分落ち着いてきたとはいえ、除染はこれからも続くので、彼らの希望を繋ぐためにも廃校の決断を言葉としても馴染むだろうか。

とりあえず休校で、何年か後に、玉野地区の子どもたちが増えることがあれば、その時は再開する。

しかし、増えないのであれば、廃校との判断をせざるを得ない。

玉野地区には、そういう気配りも必要ではないか。

原発事故後、心のケアや、医療など、私も健康診断に行き、直接、玉野の人たちを診察してきた。

現実的に学校経営が出来ない状況であることは、幼稚園も含めて間違いはない。

今後、いずれ山上小学校についても、そういう議論が出てくるかもしれないが、廃校になれば旧山上村、旧玉野村にとって、玉野村がなくなることに等しい。

<教育長>

休校と廃校に関して、廃校すれば、山上と向陽中学校に全部吸収となります。

休校となると、1人でもいれば休校に出来ない事になっており、子どもが来年4月時点で小学校に2名いるので、休校には出来ません。

休校とするためには、区域外就学とする事で対応は出来ることになる。

<学校教育課主幹> 子どもが一人でもその学校に残る可能性のある場合は、休校の手続きは出来ない。

保護者をお願いしてその子どもに、他の学校に移ってもらうことになる。

住所は玉野に置きつつも、例えば山上小学校に区域外就学とすれば、玉野小学校に通う子どもたちがゼロになるので、休校の措置が出来る事になります。

廃校の場合は、そこに通っている子どもたちがいても、廃

校という手続きが出来ることになる。

<立谷市長>

子どもが2人となる状況では、学校経営の面から判断して不適切。

また、子どもの教育を考えた場合、教育体制の面でも不適切。

財政的に判断した場合は、不適切と判断される。

だから玉野小中学校は運営しない方が良いという事が、絶対条件だと思う。

しかし、その絶対条件を実現するにあたって、廃校は必ずしも適切と言えるだろうか。

<菅野委員>

休校にした場合と、廃校にした場合の経費を比較した時、どのような違いがありますか。

<教育部長>

普通の区域外通学は、保護者の責任でその学区外の学校に連れて行くことになるので、玉野の子どもたちを説得して区域外の学校に通学してもらう場合には、基本的には保護者の負担で送迎しなければならない。

この通学に要する経費を、公費による送迎とすることが可能かどうかで、結論が分かります。

<菅野委員>

一番は通学だと思います。

区域外通学を選択すると、公費での対応は難しくなるのでは。大変ではないですか。

<立谷市長>

廃校にした場合、保護者が送迎しなくて良い。

<教育部長>

廃校の場合は、市が児童生徒を送迎する対応が必要です。

<立谷市長>

休校の場合は。

<教育部長>

休校の場合は、保護者の負担で送迎となります。

<立谷市長>

廃校の場合は、市が児童生徒の送迎を出来る。

経済的にも違うということですか。

<菅野委員>

全然違うと思う。

一番大変なのは、玉野から山上に通学する手段だと思います。

<教育長>

区域外就学としない通学には、遠距離通学補助があります。

<学校教育課主幹>

小学校は4 km以上、中学校は6 km以上の遠距離通学となった場合には、補助が出ることになる。

<立谷市長>

3月議会で決めなくてはならないか。

<教育長>

6月でも間に合いますが、3月に提案したかったのは、廃校となった場合には、H28年4月からやるものは全て最後

の行事となるからです。

<立谷市長>

廃校はH29年の4月。

<教育長>

はい、そうです。H28年度が最後の1年です。

人数的にも非常に少ないので、29年の4月からでは何かと大変となるので、今からでも山上と玉野小の交流をする事も考えている。

<立谷市長>

玉野を廃校にするコンセンサスが、非常に大きくなってきます。

議会にも、きちんとした説明をしないといけないので、今回の議会で結論を出すことは、果たして良いのだろうか。

私が議員の立場だったら、非常に違和感がありますので、6月議会でも良いのではないですか。

<教育部長>

6月でも間に合います。

<立谷市長>

今日、結論を出すのは急ぎすぎだと思う。

菅野先生が仰った、経済的な負担が非常に大きな理由です。玉野の人たちの心情を考えたら、休校にすべきだと思います。

ただ、そこで保護者の経済的な負担が出る、廃校にした方が送迎の経費が出る、ということになれば、説得力がある。

玉野がなくなるということも、玉野小中学校がなくなるという、その侘しさに対して説得力を持つてる。

玉野小中学校がなくなる最大の原因は、子どもがいないからです。

子どもが増えるなら、別に構わないと言える。

そういう姿勢は示さないとならないと思うし、平成29年から廃校か休校か、ということ考えた場合に、廃校の場合は送迎が出来る、休校の場合はそれが出来ない。

休校の場合は行政上の措置を取らないといけないところに無理がある。

だから廃校せざるを得ないという結論になると思う。

今回の、あり方検討委員会の意見を受けて、結論とする事は、少し乱暴になると思う。

私はもうちょっと、みんなでこの事実を受け止めて欲しい気がする。

その様なことで、もう少し議論をしたいので、結論については先に延ばしたいと思う。

この結論に対して、もう少し協議を重ねることとする。

6月までは結論を出さないといけないが、菅野先生の仰った経済的負担というのは、非常に説得力があると思う。

議会にも説明し、市連Pにも、玉野地区だけの問題ではなく、相馬市にとっても、小中学校が一つなくなるということは、休校とは違って大問題であり、15校が13校になるわけですから、慎重な合意形成が必要なような気がする。

教育長には少しご足労かけますが、もうちょっと揉みたいと思う。

②相馬市地域見守り協議会の設立について

○ 協議結果

市民の不安の解消に向けて、この事業を理解して、支援出来ることがあれば支援していく。

○ 協議内容

<立谷市長>

地域見守り協議会については、先週の金曜日に説明した件です。

急いだ理由は、市民に対する安心。

警察署の生活環境部長は、そんなに事件は増えていないと言っており、間違いない。

噂話で、栗津に飯場が出来た頃から、市民の不安が高まっている。

しかし、事件が起きてからでは遅いので、出来る事はやっておく方針となったため、3月からの実施になった。

2月末の段階で、登録者が100人になるかどうか分からないが、10人でも20人でも協力いただける方がいるなら、始めたいと思う。

その様な心意気を示す。

相馬に来ている作業員は、みんなが悪い人ではないが、2割から3割の人が保険証を持たないで病院に来るそうです。

お金を払わない人や、放射能について(?)中傷を書く人もいる。

犯罪が増えていなくても、市民が心配するのは妥当だと思う。

P T Aの方々は、見守り協議会に参加する方々に感謝と励ましをしてもらいたい。

ガソリン代等の経費分は出しますが、基本的にはボランティア。

何人集まるか分はからないですが、10人でも20人でもやりたいと思う。

P T Aの皆さんにもお願いします。

保護者の皆さんは、参加者に感謝してください。

そうやって、相馬市においては高齢者も子供たちを守るために、子どもと老人世代が一緒になり、そういう市の姿勢を作っていきたいと思う。

このことについては、教育会議としても了解して、参加者を励ます、という形でご協力をお願いします。

<教育長>

青いパトライト等は使いますか。

<企画政策課長>

パトライトはありません。ステッカーを貼り、ベストを着ます。

<立谷市長>

ステッカーは貼りっぱなしでも良いと思う。

<菅野委員>

実施はいつまでですか。

<立谷市長>

現段階では未定ですね。

<教育長>

以前、110番の家の依頼は、5年間でお願いしている。

5年で終わるわけではないが、受けた方では、いつまでなのか分からないと、10数年前の物もそのままになっている。

もう一度やるにしても、5年やったらまた5年継続してお願いするように考えることもできる。

<立谷市長>

とりあえずの期限をどのくらいにするかは、今後、協議会で検討する。

<菅野委員>

期限を決めた方がいいと思う。

<立谷市長>

とりあえずの期限は、5年は必要。復興創生期間の間は必要だと思う。5年で済めばいいかもしれない。

あるいはその前に、飯場が大分少なるかもしれないけれども。

ただ、そう簡単になくとも限らない。

<菅野委員>

実施時間が今のところ7時までになっているが、高校生の部活は何時までやっていますか。

<教育長>

春、夏、秋は7時頃まで。冬になると少し早いですが、中学校の部活動が終わるのは、日没後となる事もあるので、一人歩く期間と歩く場合は保護者が送り迎えしてくださいと指導している。

<企画政策課長> この協議会の会議は12日にありましたが、その際にも実際やることが大事であって、やりながら色々中身を変えていきましようということで議論している。

今の時間の関係につきましては、実行しながら調整をしていこうと思っている。

<立谷市長> 今の総合教育会議では、この事業については理解をして、出来るだけ支援出来ることがあれば支援していく。

2 その他

① 中村第一中学校屋内運動場の改修事業概要について

<立谷市長> 今の説明ですが、もう出来上がっていますし、このような形になるという報告。安全性と使いやすさと、この際に外観もちょっとおしゃれにするということ。

4 閉会